

- 問1 日本の室町時代（14世紀～15世紀）における文化や国際情勢について述べた文として、正しいものはどれか。（2019年 沖縄県公立入試 類似）
- 東大寺の大仏が建立された時期に、ヨーロッパではルネサンスが興り、ポッティチェリが活躍した。
 - 足利義満が金閣を建立した時期は、奈良時代と呼ばれ、聖武天皇が仏教による国づくりを進めていた。
 - 足利義満による金閣の建立と、イタリアでのポッティチェリによる『春』の制作は、ほぼ同時代である。
 - 琉球王国で「万国津梁の鐘」が作られた時期は、聖武天皇が東大寺の大仏を造立した時期と重なる。
- 問2 15世紀ごろ、琉球王国が中国、日本、東南アジアの国々の間で行っていた貿易において、各地から集められ、転売された品物の組み合わせとして正しいものを、当時の状況を説明した次の文から選びなさい。（2022年 鹿児島県公立入試 類似）
- 東南アジアから輸入した綿織物を日本へ、琉球国内で生産した大量の香辛料を中国へと輸出していた。
 - 中国から輸入した大量の銀を日本へ、日本から輸入した陶磁器を東南アジアへと輸出していた。
 - 日本から輸入した刀剣などを中国へ、東南アジアから輸入した香辛料などを中国や日本へと輸出していた。
 - 日本から輸入した毛織物を東南アジアへ、中国から輸入した米を日本へと輸出していた。
- 問3 室町時代後半の京都では、応仁の乱によって荒廃した町の復興を、有力な商工業者たちが中心となって進めました。彼らについて述べた文として、自治の仕組みや文化的な背景を踏まえて正しいものを選びなさい。（2019年 茨城県公立入試 類似）
- 座と呼ばれ、貴族や寺社に税を納めることで、商品の販売や製造の独占権を認められた。
 - 地侍と呼ばれ、農民をまとめて惣村をつくり、領主に対して年貢の減免を求める一揆を主導した。
 - 町衆と呼ばれ、自治組織を結成して祇園祭などの伝統行事を支える文化の担い手ともなった。
 - 会合衆と呼ばれ、濠や土塁を築いて大名の侵入を防ぎ、鉄砲の普及に大きく貢献した。
- 問4 1467年に発生した応仁の乱は、その後の日本の政治情勢にどのような決定的な変化をもたらしましたか。（2026年 栃木県公立入試 類似）
- 将軍の権威が大きく衰退し、実力のある者が上の立場をしのご「下剋上」の風潮が強まり、戦国時代へと突入した
 - 天皇中心の政治を復活させるため、地方の武士が京都に集結し、建武の新政に次ぐ新しい朝廷政治が確立された
 - 幕府がキリスト教の布教を禁止したため、フランシスコ・ザビエルが九州から国外へ追放される事態となった
 - 守護大名が団結して幕府を支える体制が整い、幕府による全国支配がより強固なものとなった
- 問5 日本の歴史における文化的な出来事を説明した記述のうち、室町時代の「東山文化」の特色を正しく説明しているものはどれですか。（2015年 大分県公立入試 類似）
- 井原西鶴が浮世草子を執筆し、元禄年間に上方を中心とした町人の生活を反映する文化が栄えた。
 - 足利義満が金閣を建立し、公家文化の優雅さと武家文化の力強さが融合した文化が形成された。
 - 足利義政が慈照寺を建立し、禅宗の精神を背景とした質素で落ち着いた趣を尊ぶ文化が広まった。
 - 千利休が茶の湯を大成し、大名や豪商たちが豪華な城郭や障壁画を好む華麗な文化が発展した。
- 問6 足利義満が明との貿易において、わざわざ「勘合」という合い札を導入し、それを照合させる仕組みをとった背景には、どのような事情があったと考えられますか。最も適切な説明を選びなさい。（2016年 鹿児島県公立入試 類似）
- 輸入品である生糸の価格が高騰するのを防ぐため、幕府が輸入量を一定に管理したかったから。
 - 明の皇帝に対して、室町幕府が軍事的に優位であることを示すための儀礼として必要だったから。
 - キリスト教の布教を目的とするヨーロッパ船の来航を、厳しく制限する必要があったため。
 - 東アジアで活動していた海賊である倭寇と、正式な貿易船を明確に識別する必要があったため。
- 問7 室町時代に東アジアで行われた貿易の歴史を整理した以下の説明文において、空欄にあてはまる人物として最も適切なものを選んでください。「この人物は、室町幕府の第3代将軍として南北朝の合一を成し遂げた。その後、明（中国）の皇帝から『日本国王』に封じられ、正式な貿易船と海賊（倭寇）を区別するために『勘合』という合札を用いた日明貿易を開始した。」（2023年 佐賀県公立入試 類似）
- 足利義昭
 - 足利義満
 - 足利義政
 - 足利尊氏
- 問8 後醍醐天皇が理想とした政治体制の背景として、最も適切な説明はどれですか。（2021年 岩手県公立入試 類似）
- 有力な御家人の合議によって政治を行う、鎌倉幕府の執権政治を継承した政治。
 - 征夷大将軍の職を天皇自らが兼任し、武士を完全に統制しようとした軍事政治。
 - 大陸の宋にならって、科挙による官僚登用を積極的に進める文治政治。
 - 天皇自らが政治の実権を握り、摂政・関白や院政といった仕組みを否定した政治。
- 問9 九州の政治・外交の拠点であった大宰府に関連のある人物について、活躍した時期が古いものから順番に並べた組み合わせとして正しいものはどれですか。（2020年 鹿児島県公立入試 類似）
- 最澄 → 菅原道真 → 鑑真 → 足利尊氏
 - 鑑真 → 最澄 → 菅原道真 → 足利尊氏
 - 最澄 → 鑑真 → 菅原道真 → 足利尊氏
 - 鑑真 → 菅原道真 → 最澄 → 足利尊氏
- 問10 鎌倉時代から室町時代にかけて、武家政権の支配力が全国へと拡大していく過程を説明した内容として、歴史的事実に基づいた正しいものはどれですか。（2024年 福岡県公立入試 類似）
- 承久の乱で後鳥羽上皇が幕府を倒したことで武家政治は一時中断したが、足利尊氏が南北朝の合体を成し遂げて再び武家支配を確立した。
 - 後鳥羽上皇が隠岐に流される前に南北朝の合体が行われ、それを不服とした守護・地頭が応仁の乱を引き起こして戦国時代が始まった。
 - 源頼朝が守護・地頭を設置して全国支配の基礎を固めた後、承久の乱で後鳥羽上皇を破って六波羅探題を置き、支配を西国まで広げた。
 - 応仁の乱によって幕府の権威が全国に及ぶようになり、守護・地頭が各地の守護大名へと成長して南北朝を合体させた。
- 問11 室町文化を代表する芸能である「能（能楽）」が、単なる庶民の娯楽から、幽玄な美を追求する洗練された芸術へと発展した背景として最も適切なものはどれですか。（2016年 大阪府公立入試 類似）
- 出雲の阿国が京都の河原で始めた新しい踊りが、当時の有力な大名たちの間で流行したこと。
 - 明（中国）との貿易によって、大陸の高度な演劇理論が直接日本に持ち込まれ、猿楽に融合されたこと。
 - 江戸幕府の徳川家康が、武士の嗜みとして能を「式楽」に指定し、専門の役者を育成したこと。
 - 室町幕府の第3代将軍である足利義満が、観阿弥・世阿弥親子の芸を高く評価し、手厚く保護したこと。
- 問12 後醍醐天皇と足利尊氏の対立に端を発する「南北朝時代」の始まりについて述べた文として、最も適切な背景を説明しているものはどれですか。（2020年 山形県公立入試 類似）
- 元寇（モンゴル人の襲来）の恩賞が十分でなかったため、北条氏を倒した足利尊氏が南方の領土を守るために朝廷を分けたこと。
 - 建武の新政において公家が優遇され、恩賞などに不満を持った武士たちが足利尊氏をリーダーとして反旗を翻したこと。
 - 平氏を滅ぼした源頼朝が鎌倉に幕府を開いた際、朝廷の権力行使を制限するために、吉野に別の天皇を置くよう命じたこと。
 - 織田信長が室町幕府を滅ぼした後、豊臣秀吉が京都の朝廷とは別に、奈良に独自の政権を樹立しようと企てたこと。